

第 10 回滋賀県下水道審議会資料

関連計画の概要版

令和 2 年 3 月 30 日

滋 賀 県

目次

賀県基本構想	1
マザーレイク 21 計画.....	2
第五次滋賀県環境総合計画.....	3
新下水道ビジョン加速戦略.....	4

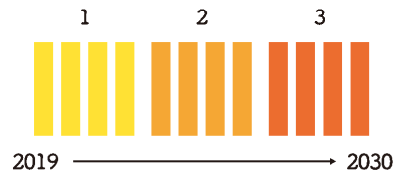
滋賀県基本構想

What's 滋賀県基本構想？

- **みんなの力を合わせて、目指す未来をつくります。**
この「滋賀県基本構想」は、みんなの力を合わせ滋賀の未来をつくっていくための将来ビジョンです。県は、その実現に向け、一緒に取組を進めます。
- **SDGs の特徴を生かします。**
この基本構想では、目指す 2030 年の姿として、自分らしい未来を描くことができる生き方と、その土台として、将来にわたり持続可能な滋賀の姿を描きます。その実現のため、「経済」、「社会」、「環境」のバランスを図る統合的な取組である SDGs の特徴を生かします。
- **2030 年度までの 12 年間の計画とします。**
私たちはこれから、人口減少、急激な高齢化、第 4 次産業革命と呼ばれる技術革新、リニア中央新幹線など都市の姿を変え得る高速交通の整備といった大きな社会的変化に直面します。
この基本構想は、これらの大きな変化のその先、2030 年度までの 12 年間(2019 年度～2030 年度)の計画とします。

滋賀県基本構想実施計画

この基本構想に基づく県の取組を着実に進めるため、計画期間である 2030 年度までの 12 年間で 4 年ごとの 3 期に分け、その期間の政策を定めた「実施計画」を策定します。



目指す姿の実現に向けて活かすべき滋賀県の特徴

- 全国トップクラスの健康長寿県
- 大学等の知的資源の集積と自ら学ぶ姿勢を持つ県民性
- スポーツや運動に親しむ県民性
- 近江商人「三方よし」の理念
- 自分たちの地域を自分たちで守る住民自治の実践
- 一人ひとりの存在を光とする、共生社会の精神
- 経済圏の結節点に位置し、太平洋側にも日本海側にもアクセス良好な恵まれた地理的条件
- 研究開発拠点の集積による特色あるモノづくり
- 豊かな歴史や文化芸術
- 恵まれた自然環境・生活文化
- 琵琶湖と共生する、環境に配慮した特色ある農林水産業と多彩な食文化
- 様々な価値を有する「国民的資産」琵琶湖
- 森・川・里・湖がつながった環境
- 世界の湖沼環境保全などへの貢献

「SDGs (エス・ディー・ジーズ)」とは？

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)。
2030 年までに、発展途上国だけでなく、先進国も含めた国際社会が取り組むべき 17 の目標。2015 年 9 月の国連サミットで採択されました。

私たちは、地球を救うことができる最後の世代となるかもしれないと言われてしています。

持続可能な社会をつくるために、経済成長、社会的包摂(「誰一人取り残さない」)、環境保護という 3 つの課題を統合的に解決することを求めています。

SUSTAINABLE GOALS

世界を変えるための 17 の目標



SHIGA × SDGs

滋賀県基本構想

変わる滋賀 続く幸せ
-Evolving SHIGA-

平成 31 年(2019 年)3 月策定

発行者：滋賀県(総合企画部企画調整課)
〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1番1号
電話 077(528)3312 / FAX 077(528)4830
E-mail kikaku02@pref.shiga.lg.jp
HP <https://www.pref.shiga.lg.jp/>



滋賀県基本構想

滋賀県は、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の視点を県政に活用しています。

デザイン：株式会社いろあわせ/印刷：アイズ株式会社

このリーフレットは再生紙を使用しています。

マザーレイク 21 計画

③重点プロジェクト

目標の達成に大きく貢献することが期待でき、関連機関が連携することでさらに効果を高めることができる事業・施策を重点プロジェクトと位置づけ、集中して取り組みます。

目標の達成に向けて取り組むプロジェクトだ。



「近い水」のある暮らし再生プロジェクト

水と関わる生活、文化、歴史が息づき、人々が日常生活の中で琵琶湖の恵みを受し、琵琶湖への感謝と気づかいが根付いている「近い水」のある暮らしを実現します。また、下流淀川流域の人たちにも呼びかけ、下流への思いやりと上流への感謝が重なる「飲水思源*」の気持ちを育み、取り組みを一層広げます。

※「その実を落とす者はその樹を思い、その流れに飲む者はその源を思う」という、北周の詩人・庾信の「徵調曲」という詞に基づく故事成語。飲み水の源を忘れないようにすること。

琵琶湖の生きものにぎわい再生プロジェクト

南湖再生プロジェクト

良好な環境と適正な人間活動とのバランスの中で、水草の繁茂状況をかつての状態で戻すとともに、ニゴロブナ・ホンモロコ・セタシジミの漁獲量を回復します。

内湖再生プロジェクト

内湖を再生することにより、在来魚や希少動植物など豊かな生態系を回復するとともに、暮らしを湖に近づけ、琵琶湖と人とのより良い関係を築き、地域資源を活用した社会成長を図ります。

外来生物等対策プロジェクト

琵琶湖の生態系にとって喫緊の課題となっている外来魚やカワウ、外来水生植物等の駆除を図り、在来生物の生息・生育環境を回復させます。

森・川・里・湖のつながり再生プロジェクト

流域を一つの系として保全するための取り組みの方向性を各主体・施策間で共有し、森・川・里・湖のつながりを生態系と暮らしの両面において再生します。

水環境の保全プロジェクト

琵琶湖の水質汚濁メカニズムを解明し、新たに設定した汚濁指標に基づく水環境の保全対策への道筋を明示します。



作：成安造形大学
石田恵理 致野なぎさ 柴田翔子 (2011)

第五次滋賀県環境総合計画



> 目指す将来の姿

琵琶湖をとりまく環境の恵みといのちを育む 持続可能で活力あふれる循環共生型社会

環境に影響を与える要因は、複雑化・多様化してきており、その一因として、経済・社会の中で自然の恵みが十分に活用されなくなってきたことにより、あらゆる物質の健全な循環が滞ってきていることが考えられます。

このため、目標年次の「2030年の環境の見通し」を示した上で、

**「いかに環境負荷を抑制するか」という視点だけでなく、
人間が「いかに適切に環境に関わるか」**

という、より広い視点を取り入れています。



> 【計画の目標】 環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築

持続可能な社会を実現するためには、環境・経済・社会を統合的に捉える「持続可能な開発目標（SDGs）」の考え方を踏まえ、「生態系・自然界における循環」のもとで生み出される自然の恵みを「経済・社会活動」において適切に活用する必要があります。

こうしたことを踏まえ、計画の目標を「環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築」とし、①共生、②「守る」「活かす」「支える」、③協働の三つの視点での施策を進めます。



新下水道ビジョン加速戦略

新下水道ビジョン加速戦略(H29.8)の概要

<p>背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新下水道ビジョン策定(H26.7)から約3年が経過、人口減少等に伴う厳しい経営環境、執行体制の脆弱化、施設の老朽化は引き続き進行 ・一方、官民連携や水ビジネスの国際展開など、国内外で新たな動き 	<p>趣旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新下水道ビジョンの実現加速のため、社会情勢等を踏まえ、選択と集中により国が5年程度で実施すべき8つの重点項目及び基本的な施策をとりまとめ ・本加速戦略については概ね3年後を目途に見直しを行い、さらなるスパイラルアップを推進
---	--

8つの重点項目と施策例

8つの重点項目の各施策の連携と『実践』、『発信』を通じ、産業を活性化、さらなる施策の拡大、国民生活の安定、向上につなげる**スパイラルアップ**を形成

- ◎ : 直ちに着手する新規施策
- : 逐次着手する新規施策
- ◇ : 強化・推進すべき継続施策

